



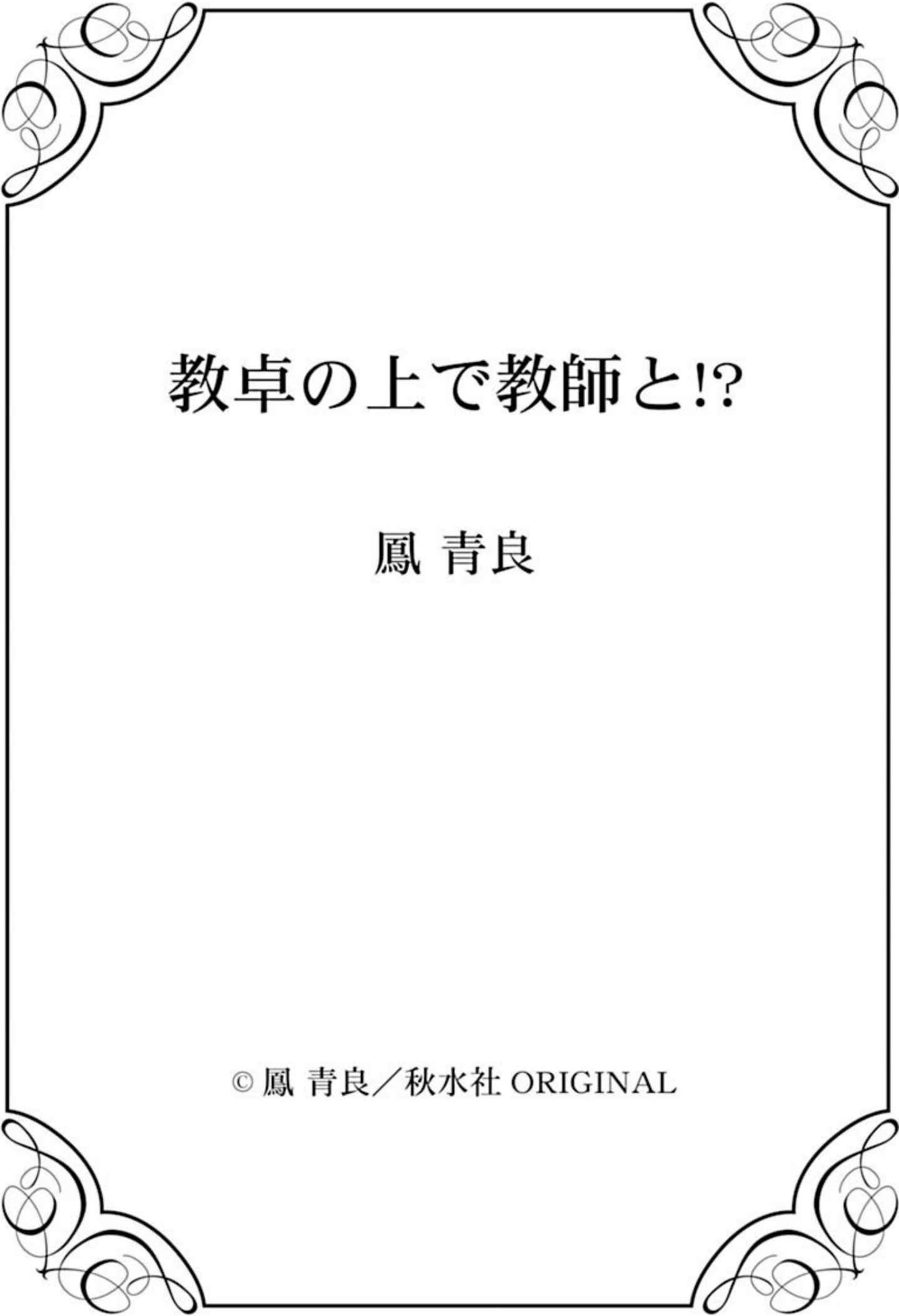
教卓

教師との上で

!!

OHTORI SEIRA

鳳 青良



教卓の上で教師と!?

鳳 青良

© 鳳 青良／秋水社 ORIGINAL



教卓

教師の上で

!!

OHTORI SEIRA

鳳 青良

ひとつの細胞を分かちあって生まれた

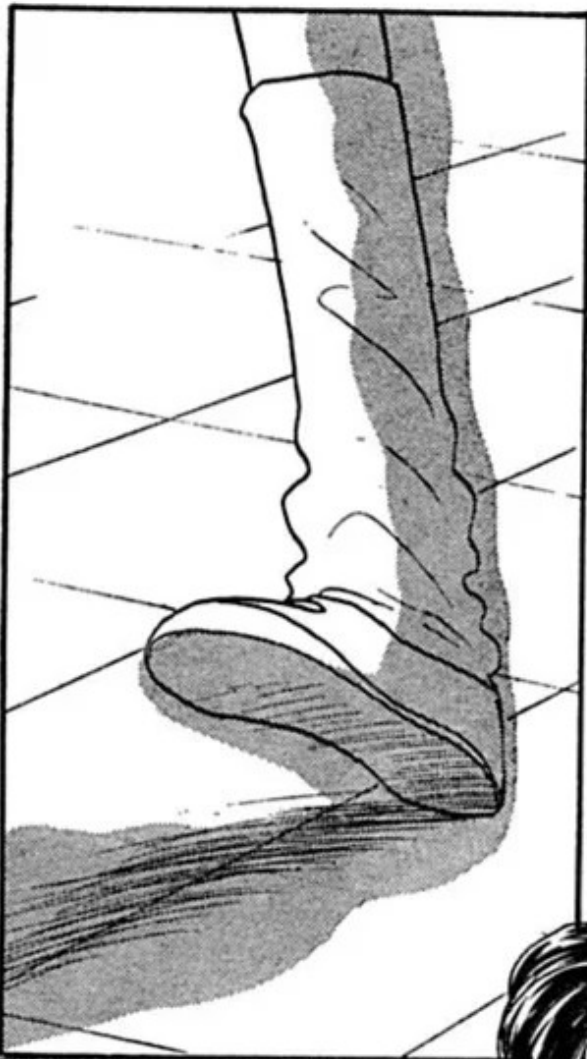
ふたつの生命

実華と結華



神様
神様

どうか ふたりに偏ることなく 幸せを賜りますように

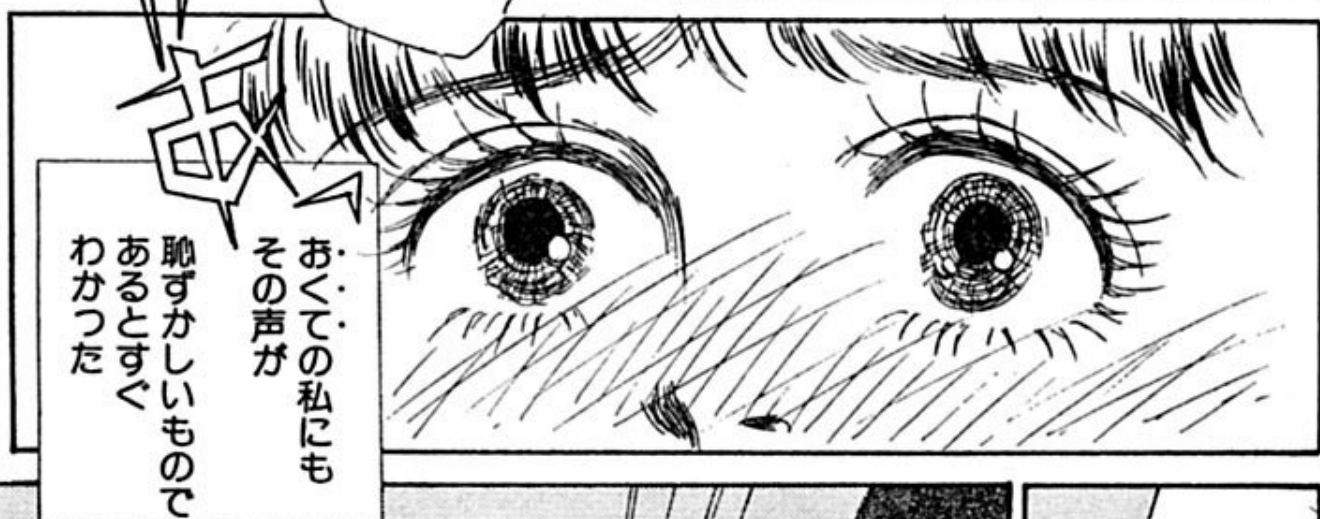


委員会
遅くなっちゃった
結華
待ってるのに

1-B

結華…







あれは
ディーブキス
つていうの？

顔
ナナメに重なってる

あ口
動かしている
唇重ねながら

すごい
すごい

なんだか
味わってるみたい
相手のこと

あ

ダメだよ
結華
こんなキスしたら
もう我慢
できなくなる

息も絶え絶えの
先生の声

我慢なんて
しないで先生

好きなの

甘ったるい
結華の涙声

わたしを女にして

本当の恋を
教えて

お願い…

結華…

荒々しい吐息で
先生の声は
消え入りそうだった

英語の園田先生は
新任の若い教師で
ポストン大学に
留学経験があり
女子生徒に
圧倒的な人気が
あった

勿論
わたしも
憧れていた

そして
結華も
やはり—

白い
チョークを黒板に
走らせる
憧れの手が

結華の
白いおっぱいを
くるむように
揉み始めた

嬉しそうに
甘い声をあげる
結華

あ…ん

わたしも
声を
あげそうに
なった

あ

あ

あ…あ

あ…
先生…

自分が
揉まれてるように
乳首が堅く尖る



もう太股まで
ぐつちより
濡れていた



ああっ
感じるっ



壊れそうな
あえぎ声に
誘われて

や
いじめないで
先生

ああ…ん

早熟だな
結華は

もう
蜜が溢れてる





先生は結華を刺した

こうして

教卓の上で

わ・た・し・た・ち・は
ロ・ス・ト・バ・ー・ジ・ン・の
儀・式・を・済・ま・せ・た



言ったら
先生
わたしを抱いて
くれた？

言ってくれれば
よかったのに

初めて
だったのか
結華



.....

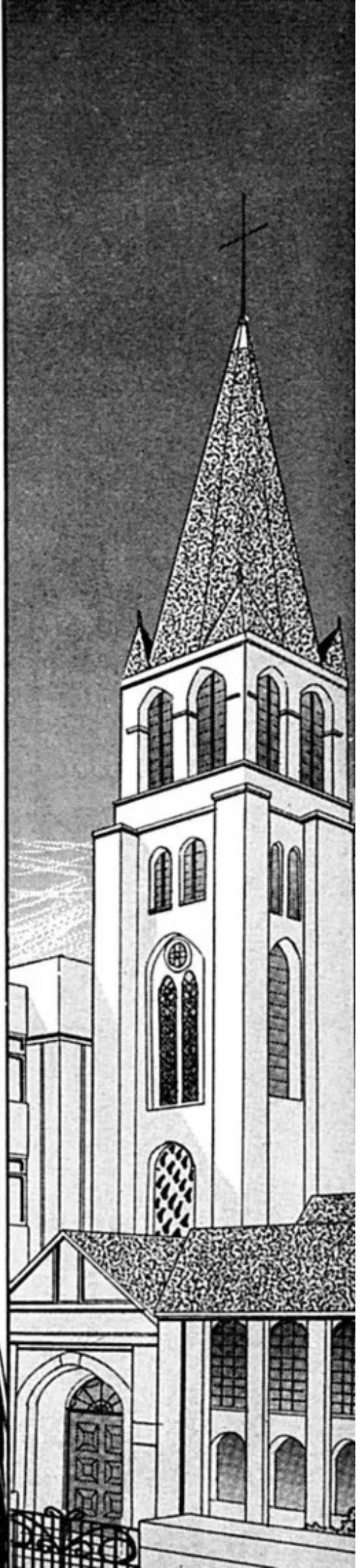


あーあ

ソックス
片っぱ
脱げちゃってる



先生が
すごく
す・る・から







最後に
長いキスをして
先生は静かに
教室を去った



うんと
丁寧に
教えてやるよ



そこに
いるん
でしょ
実華

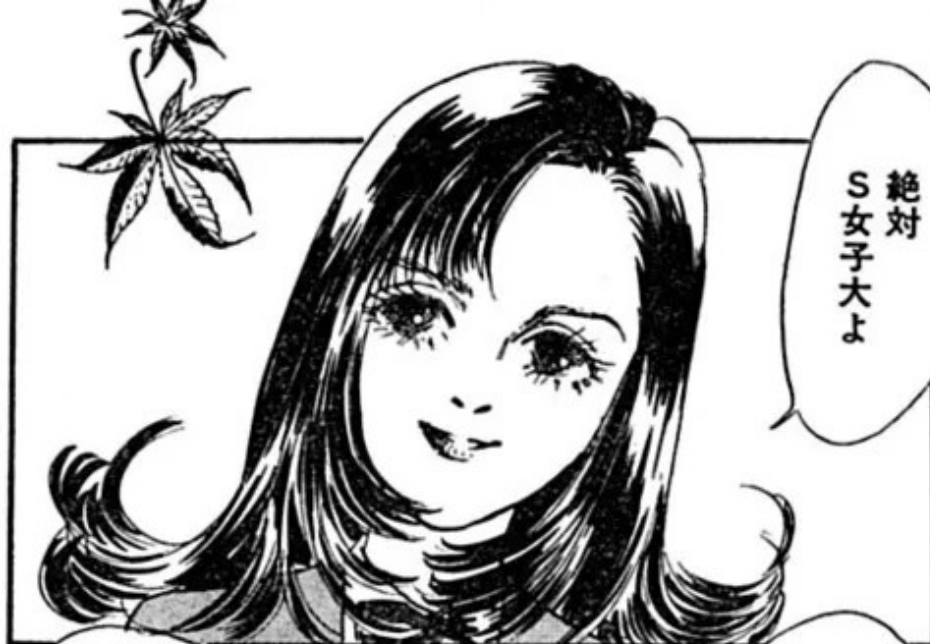


気持ち
よかつ
たでしょ?



結華…





絶対
S女子大よ



J大? A大?
何そんなとこ受けるの
実華ってば

うん
やっぱ総合大学が
いいなってるの



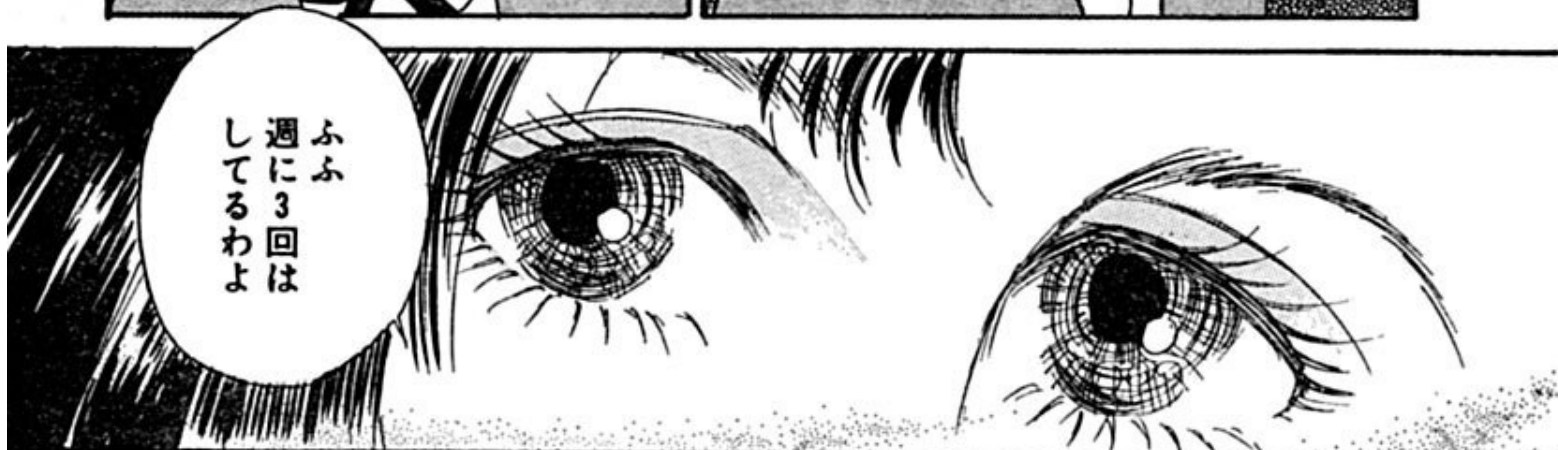
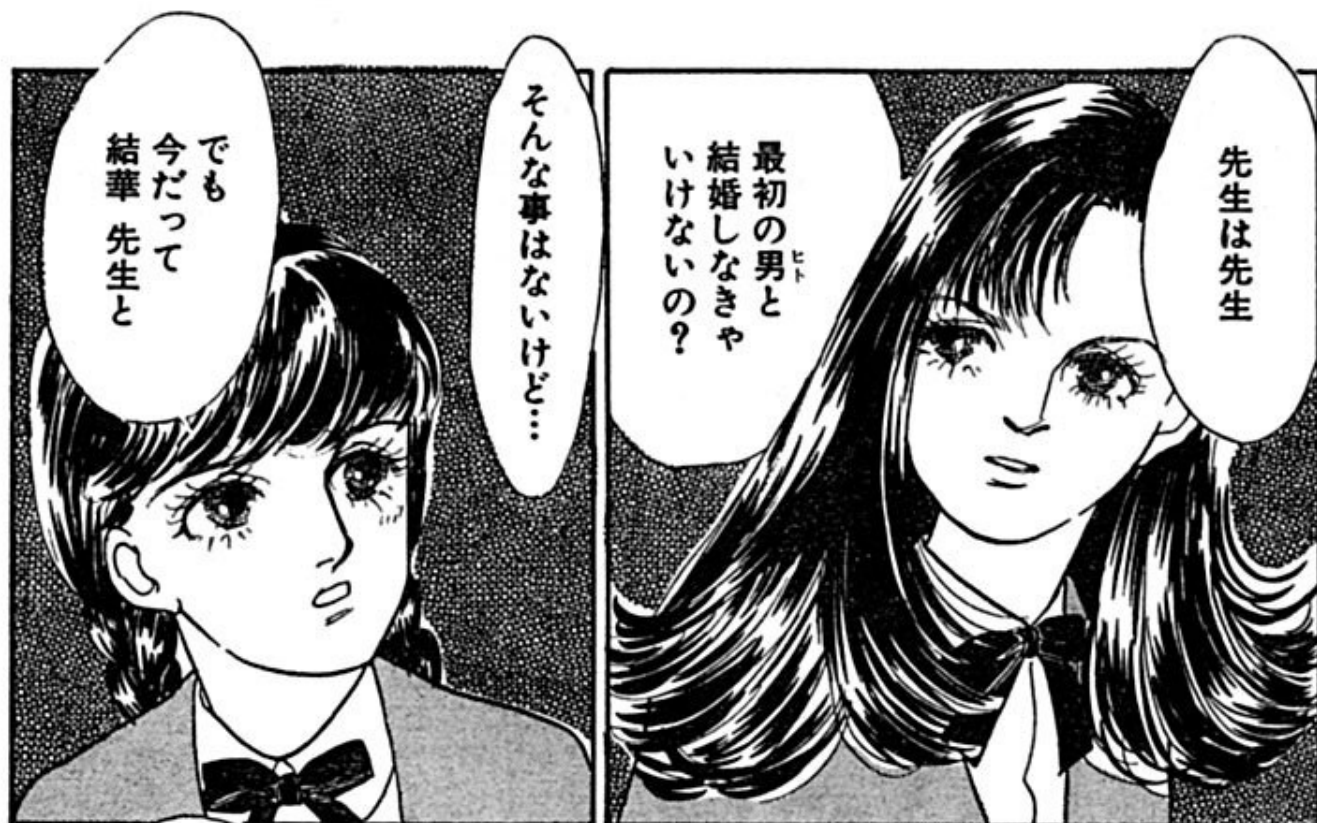
わたしは女子大
学力なんて
どうでもいいのよ
あそこなら
T大と交流あるもの

共学じゃ他校と合コン
しないで
自分とこの男子と
くっついちゃうじゃない

そんなの
まっぴらだわ

やだ
結華
園田先生は
どうするの?







結華…

放課後



制服を脱いだ
結華は何度も
先生に貰かれていた

狂おしい喘ぎ声が
夕日に包まれて
黒板に染みこむ



あ…

結華はどんどん
淫靡な芳香を放つ
美しい聖女になっていった



ん…

第58回
卒業式

…結華
愛してるよ

卒業したら
堂々ときあえる

そして
結婚しよう

先生…

ダメよ

結華…?



わたし
実華よ



そんな...

「さよなら」って
結華からの伝言

結華は
もう
会いたくないって



先生

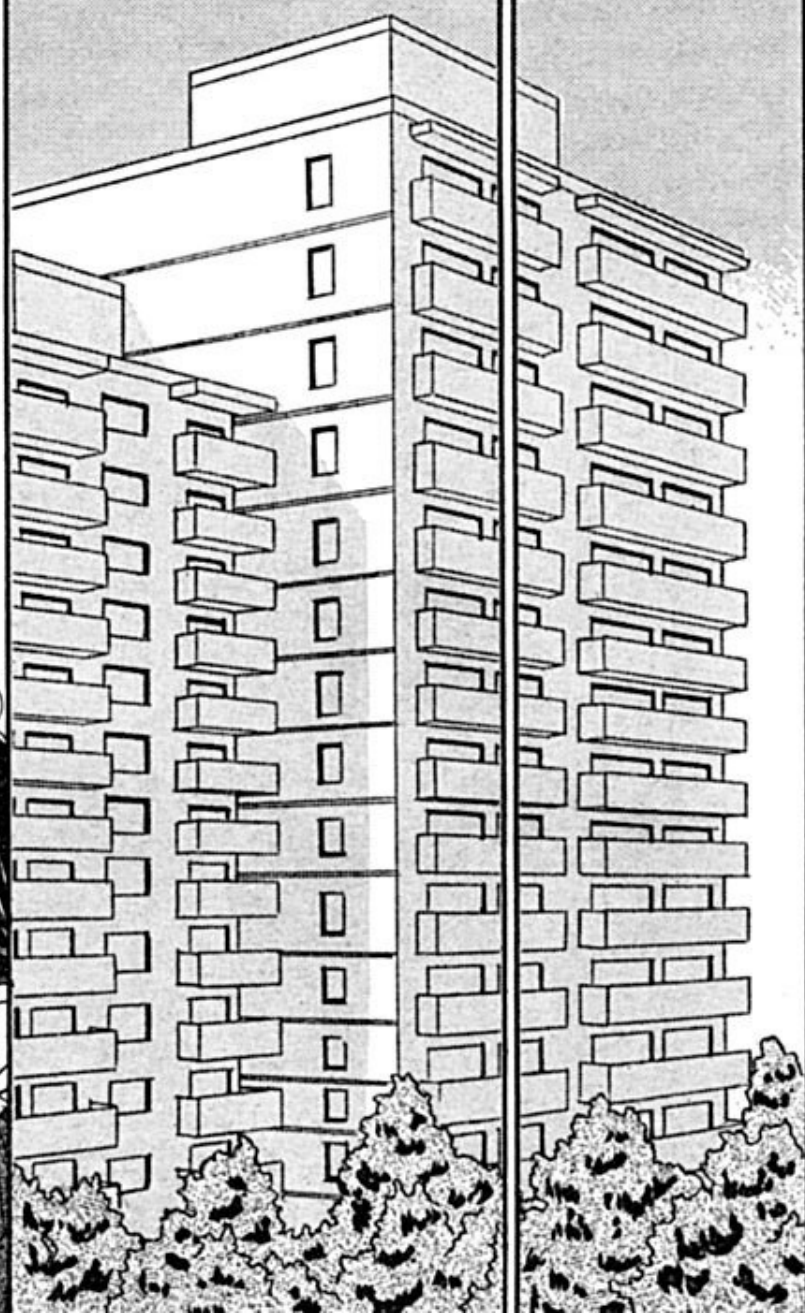
ありがとう

わ・た・し・た・ち・を
可・愛・が・っ・て
く・れ・て

各々の大学が決まると
結華の強い要望で
わたしたちは上京し
ふたり暮らしを始めた

はい

あ結華、
オレだよオレ！





不思議ね
同じ顔でも
全然違う事
考えてる

わたしは
結華みたいに
モテないもの

望まないからよ

「求めよ
さらば与えられん」
てキリストさんも
言ってるじゃない

やーん
伝線
しちゃった

ピッ

本

ガーター
ストッキング
片っぱだめにな
るともう
使えないのよね

もったいないけど
捨てるしかないかあ

ヒュー

アッ
アッ
アッ

あつ来たわ

じゃあね 実華
きょうは帰らないかも
しれないから
家から電話あつたら
言つといて♡

どこ泊まるの

ふふ

内緒♡
シティホテル♡♡

じゃあね!

やれやれ…

シティホテル
なんか泊まって
「できちゃった結婚」に
なっちゃっても
しんないぞ☆

はい

やだ 結華つてば
フッキングしてるの
忘れてたのね

あ
結華？
オレ

きょうの約束
なんだけど

六時には
間に合わないから
七時にル・アール
じゃね

あ…
あの

ちよつと！

やだ
すごい
おつちよこちよい
この人

わたしのこと
結華だと
思ったまま





大丈夫よ
ばれっこないわ
結華のメイク
真似したし
結華の服
バッグ・靴
前も
園田先生だって
気づかなかった

結華！



好みだ……



お待たせ

ごめんよ

バイト
1時間伸びちやって



どこ
泊まるの？

内緒♡
シティホテル♡♡



行こうか
例のホテルのレストラン
とっというたから

やはり双子だから
なのだろうか
結華の彼氏は
好みの男が多かった

あの…

どうしたの？

行きたいって
前から言ってたろ
結華のために
バイトしてるような
もんなんだゾ
オレ

あ…
うん…

大丈夫…

鉢合わせるとは
限らない

それに

結華は

部屋に泊まつて
Hしまくつて
はずだし—

夕焼けの校舎が
脳裏をよぎり

わたしの背中を
ト…ンと
たたいた

うれしい
早く
行きましょう

あれ？
声どうしたの
いつもと違う

風邪？

そ…そう
風邪ひいちゃった
みたい…

なんだ
ムリして
出てこなくても
よかったのに

でも…
会いたかった
から

いけない
結華に
なりきらなく
ちゃ!!

結華…

うれしいよ

結華は
いつも
こんな風に
男の人に扱われて
いるの!?

じゃあ
くっついて歩こうか
そのほうが
寒くない

あ…ん

ぎゅぎゅ

あ
気をつけろよ
そこ段に
なってる

なんて

いい気分だろう

男の人に優しくされるのって

とひけるような気持ち

共学で
友達以上のつきあいを
したことがない
わたしには

このお姫様扱いは
ドキドキした

ご予約いただいています
よしざわ
吉沢さまですね
どうぞ

吉沢さんていうのね
このコト

やつと
名前が
わかった

結華って
高校のときも
モテたんだろうな

えっ？

そんなこと…

そうよ

結華は
いつも
男の人に抱かれてる

あのときも

ふふ…

モテない女が彼女じゃ
つまらないでしょ

わたしは結華

言って
くれるじゃない

部屋—
とってあるよ

わたしはどんどん
結華になつていった

うれしい

ん…ん

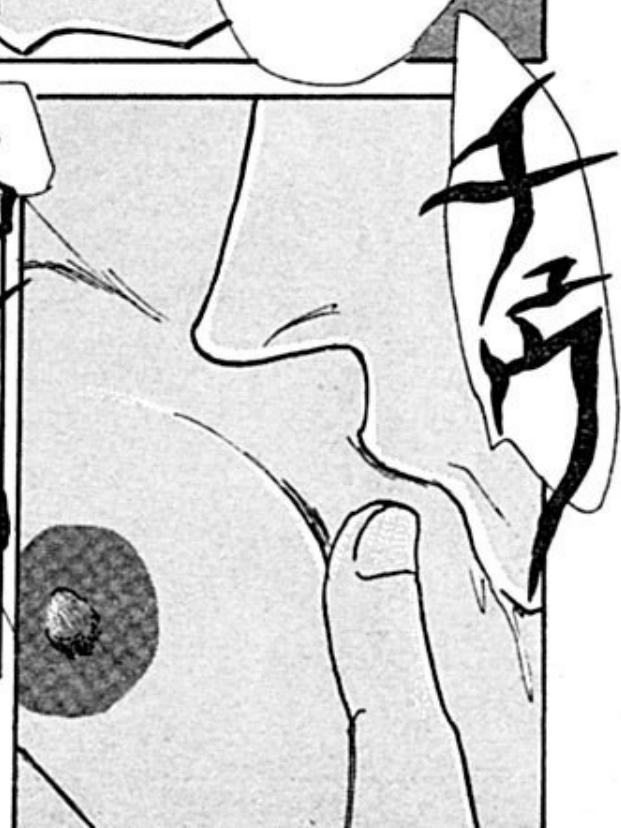
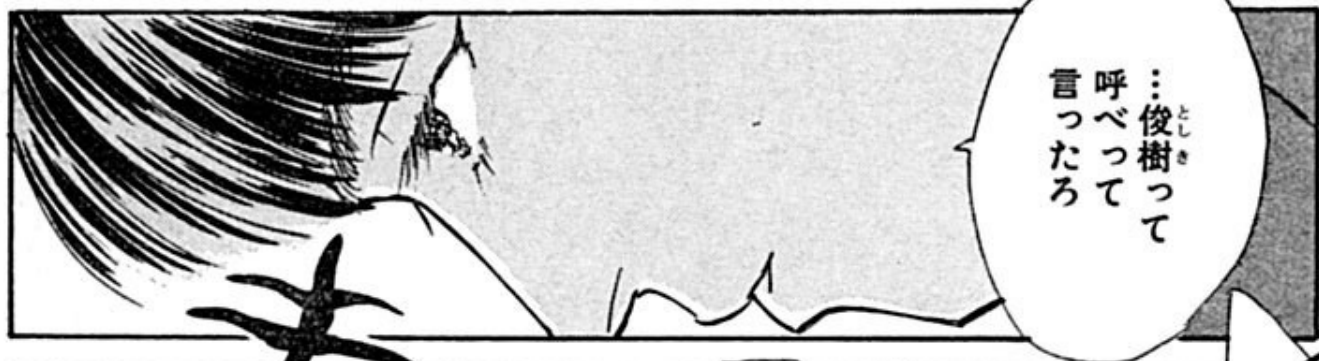
あ…
すごい斜めに食べられてる
みたいなキスあ…
舌を…

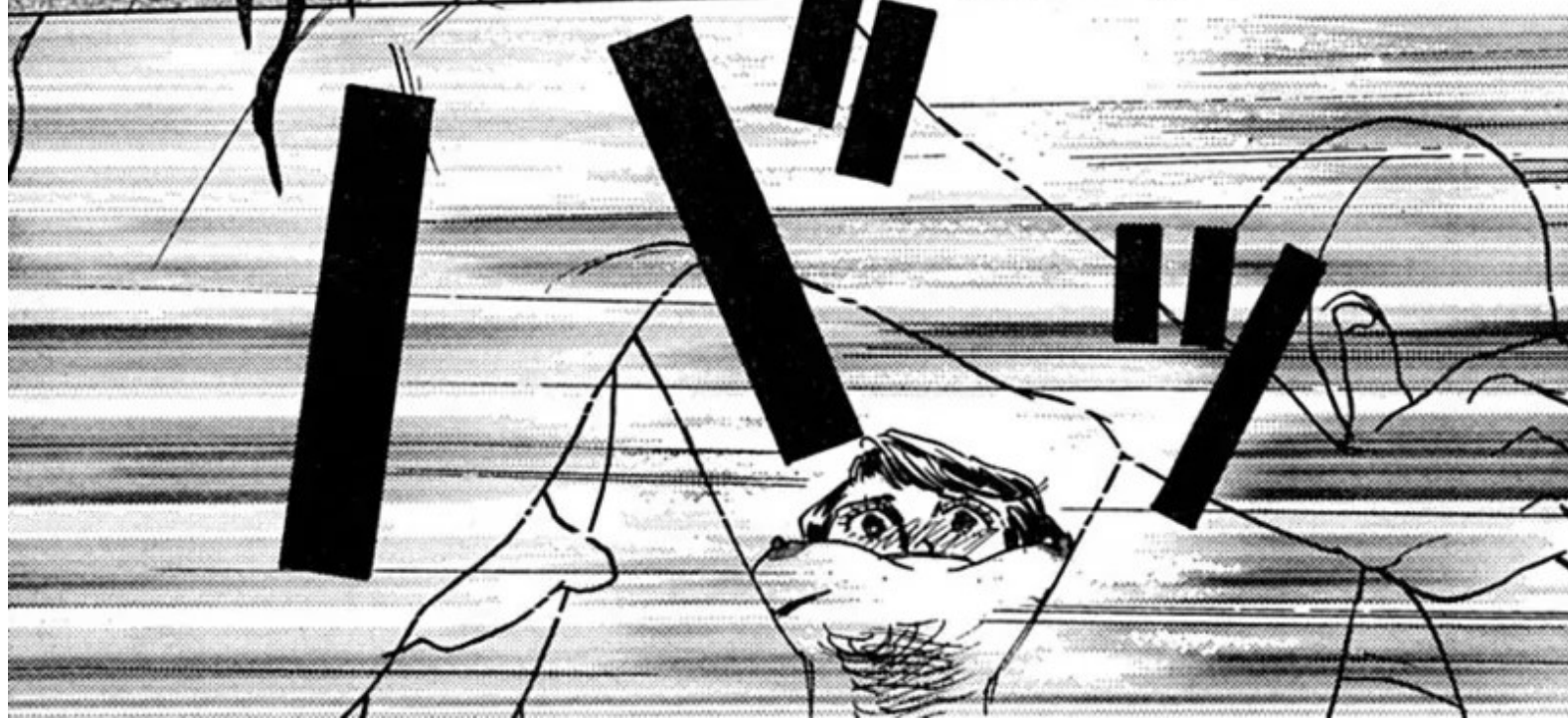
舌

あ…

ん…

あのととき夕焼けの
校舎で見た
結華の痴態を
見出ししていた今は
わたしが
あの結華なのだ





きょうは
たっぷり
キスしてやるよ

ここ

結華の
大好きなところに

え

や…

聴かしい

結華つてば
いつも
こんなこと…

ああっ

ビク
ビク
ハニ



ああつ
頭が
切れそう...

おいしいよ
結華

ああつ

オレの注射で
風邪なんか

ふきとばしてやるよ



こわれる

どうしたの?
体調悪いのか...

あ...

あの

いけない
バレちゃう

そうよ
わたしは結華

制服で教師を
何回もくわえこんだ

性少女

わたしは結華

ああ…

もっと

もっと

揺らして

必死で男の
背中にしがみついて

喘ぎ声をあげる

自分が結華なのか

実華なのか

もうわからない





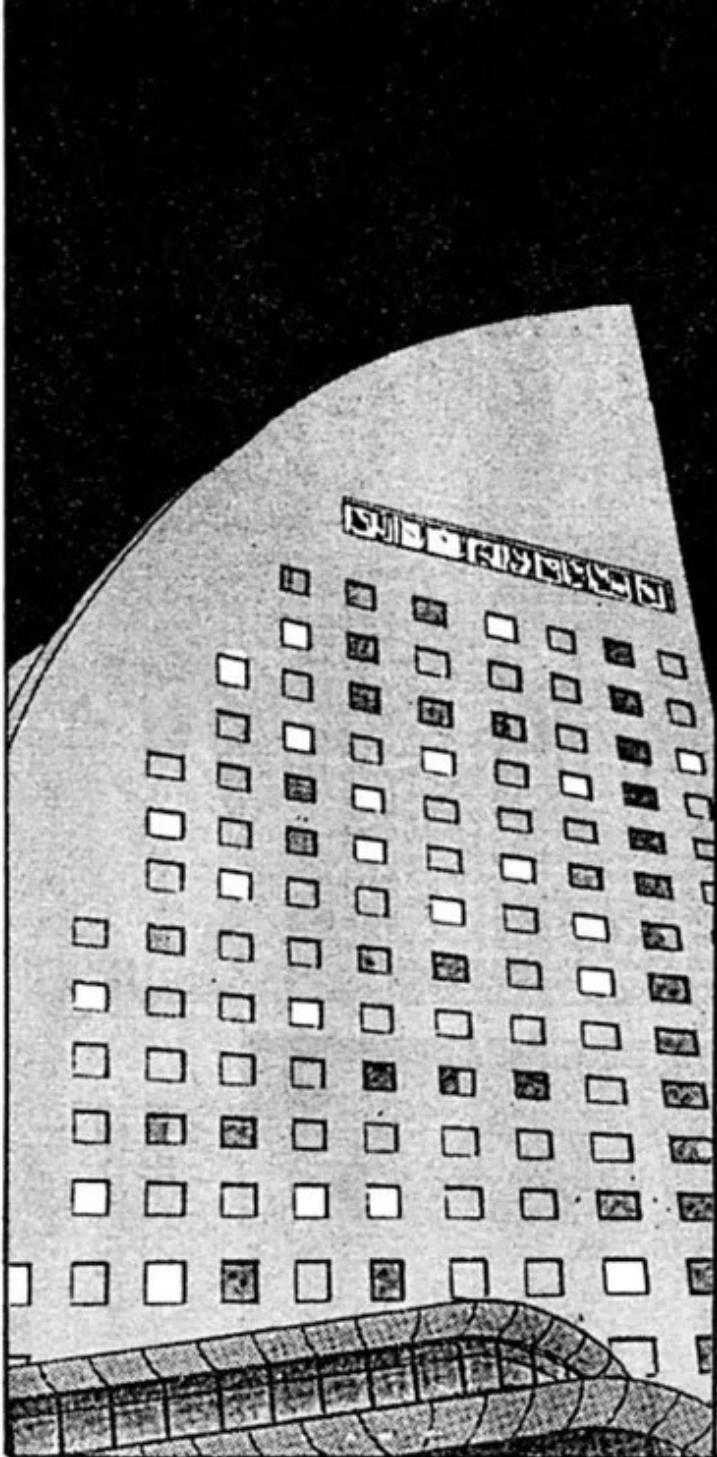
何？

あ…

伝線してる

パンスト

大丈夫
予備が
バッグに
入れているから



え？

アサ…



翌日
結華は寝不足の
目をして帰宅

ただいま

迎えるわたしも
目の下にクマを
つくっていた

おかえり

どうしたの
疲れた
かおして





はい

吉沢です

...

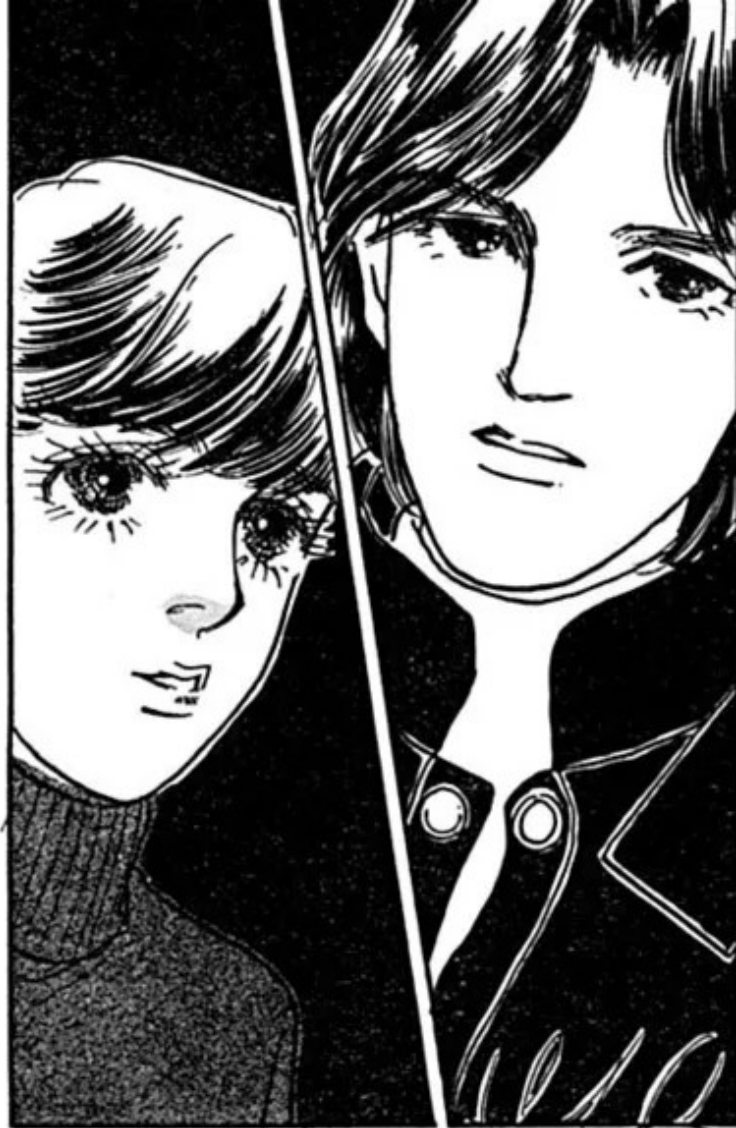


あ...あの

きみは
実華さん?

出て来て
くれないかな
きみに
会いにきたんだ

どうしよう
バシたんだ





いつも
結華から
きいてたんだ
おくての双子
実華って

まさか
あんな風に会うとは
思っていなかったよ

結華は
ガーター
ストッキングしか
はかないんだ

きみ
パンスト
はいてたろ



しまった!!



ごめん

気づいた時には

もう

してしまってたから...

...

わたし…

待って

ただ
謝りに
来たんじゃない

頼みに来たんだ

改めて
会って欲しくて

結華として
ではなくて

実華として

ほんと
つきあって
くれないか…





シンデレラの
忘れ物は
破れた
ストッキング

少女から女へ

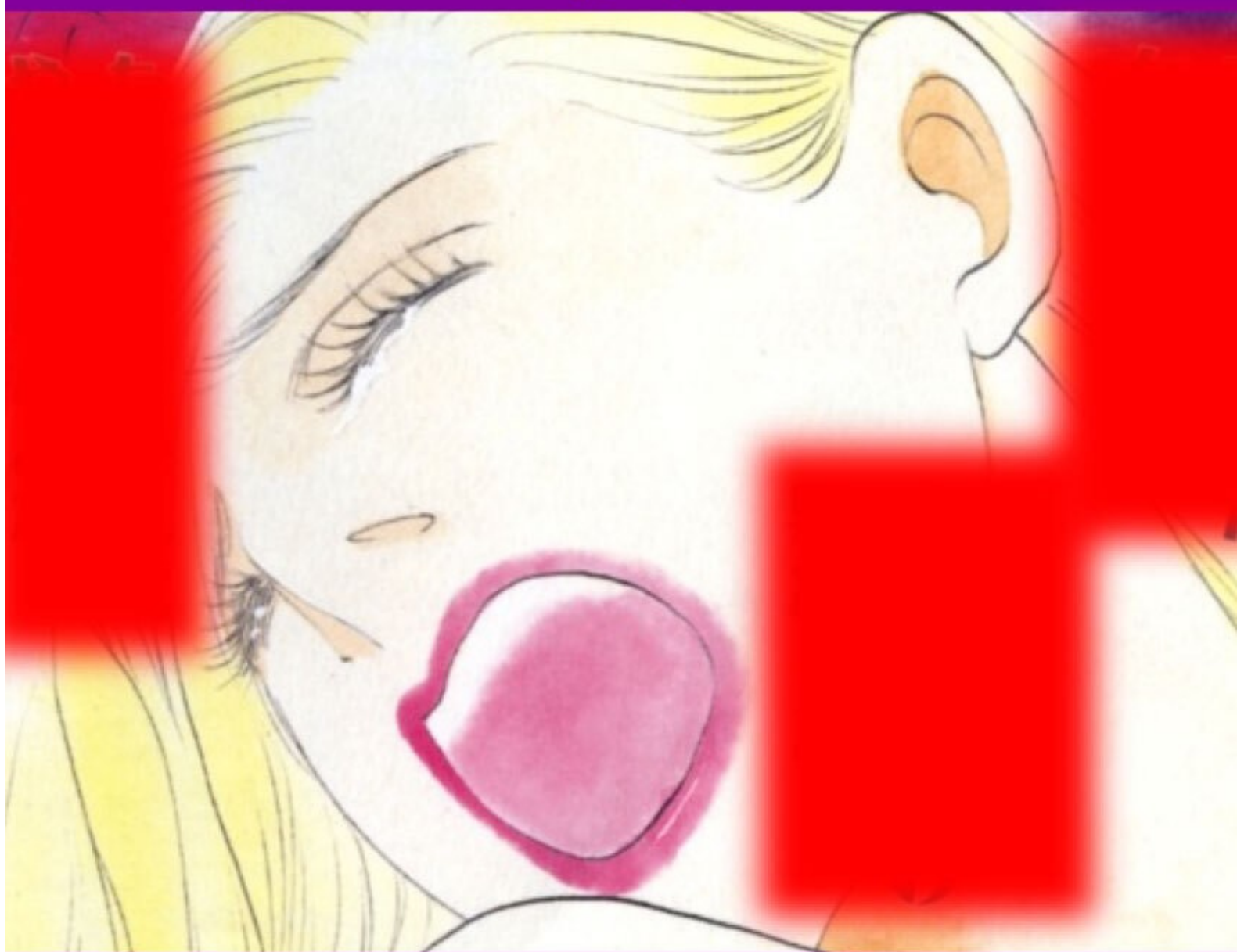
生まれ変わった日から

もう

白い靴下は似合わない

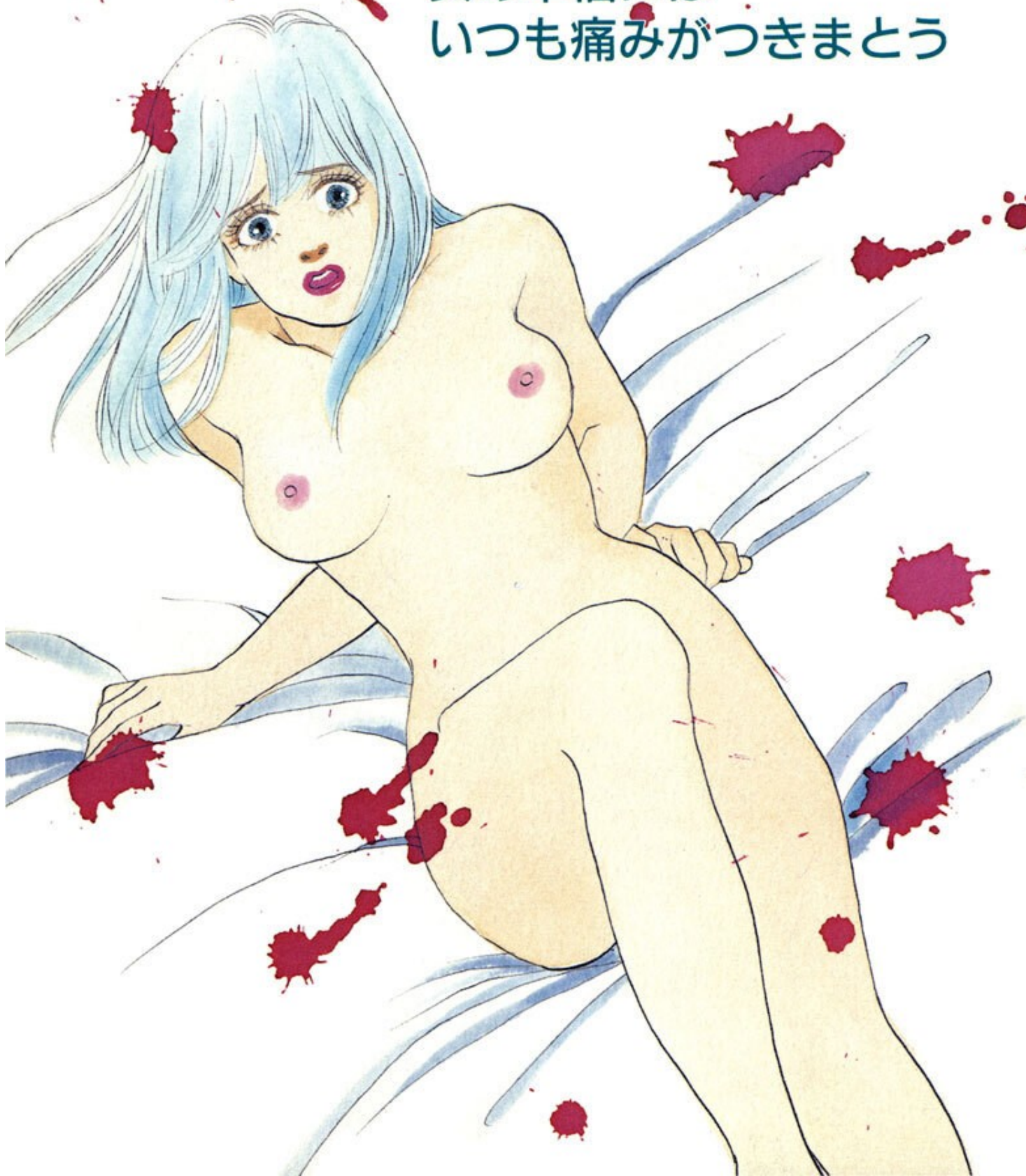
◆END

最初の男 同時に塞がれる 上下の唇



鳳 青良 OHTORI SEIRA

女の幸福には
いつも痛みがつきまとう





痛い……！



すぐ
気持ち
よくなるよ

大丈夫

あ…ああ

やだ
すごい

お腹の中に
彼が入ってるの!?

それは
初めて味わう
感覚

身体の奥深くまで
うごめく異物が
侵入する――

動くよ

まりな
麻里奈

ひっ

ごめん

でも
きつと
このほうが
気持ちいいから

あ

ゆっくり
ゆっくり
揺れるように
動き始めると

痛みが
だんだん
快感に
転じていく
こと…

あっ

あ

——破瓜——
はか

や…

どうして

ゆうや
勇哉さん

あ…あ
気持ちいい

オレもだ
麻里奈

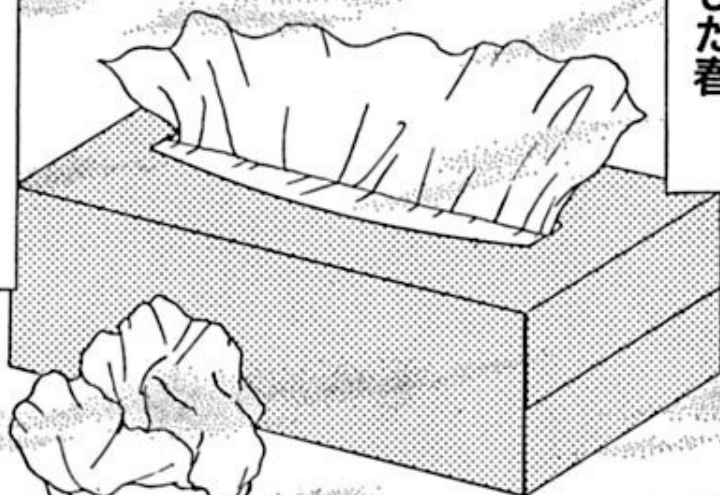


頭が溶けちゃう
~~~~~

いやあ~~~~~

高校を  
卒業した春

バージン  
処女からも  
卒業した





うちむら  
内村勇哉は  
バイト先で  
知り合った  
ひとり暮らしの  
大学生

知り合って  
3ヶ月  
キスから先は  
あつという間

初めて  
だったのか



麻里奈

好きだよ

どうして  
かわいいよ

やだ…  
恥ずかしい

カーアツ





それから  
会う度  
セックスした

両親に  
バイトの時間を  
ごまかして  
いつも  
彼の部屋に  
寄った



いいよ  
麻里奈

ずいぶん  
上手になった

彼に  
悦んでほしくて  
何でも教わった



初めての男に  
のめり込むって  
こういうこと  
なんだろう

明けても  
暮れても  
彼が欲しくて



ん…ん

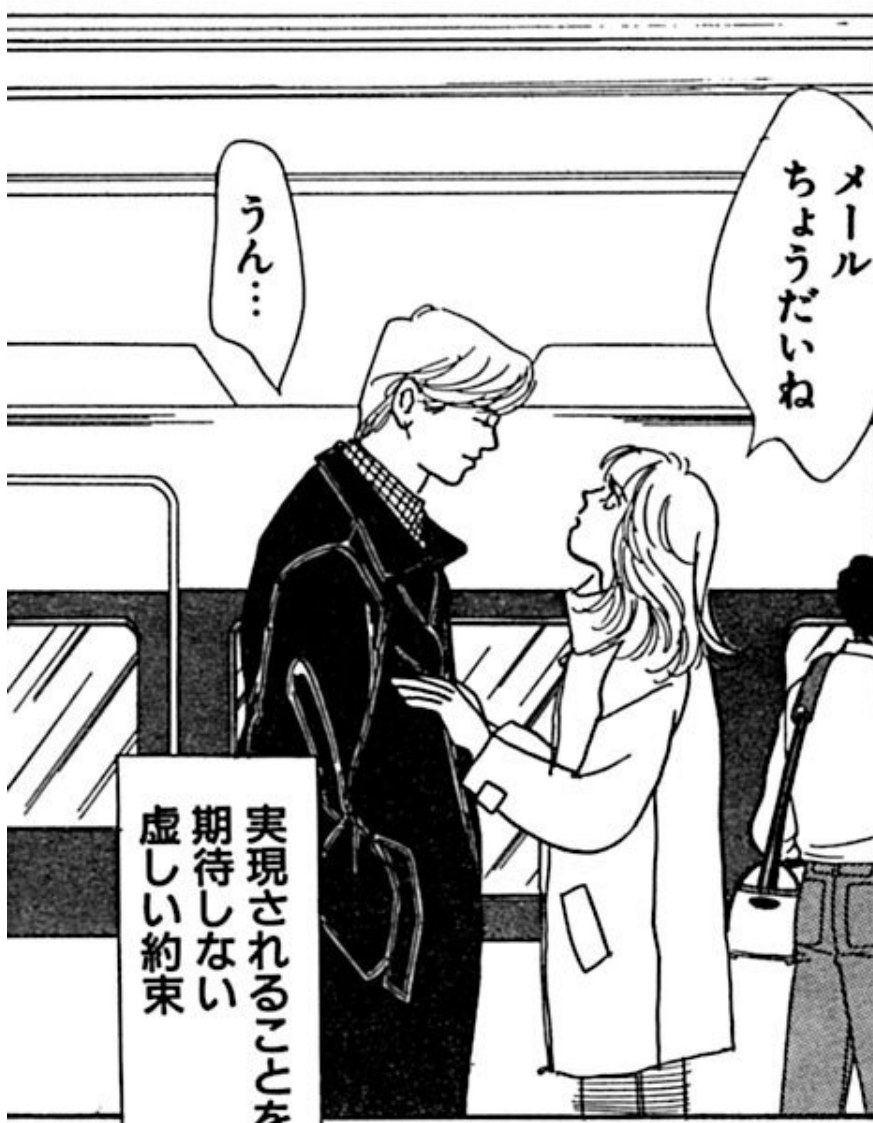
まるで  
勇哉のペニスに  
支配されているかのように



—が

Uター  
就職？





うん…

メール  
ちょうだいね

実現されることを  
期待しない  
虚しい約束



うん

東京には  
コネもないし

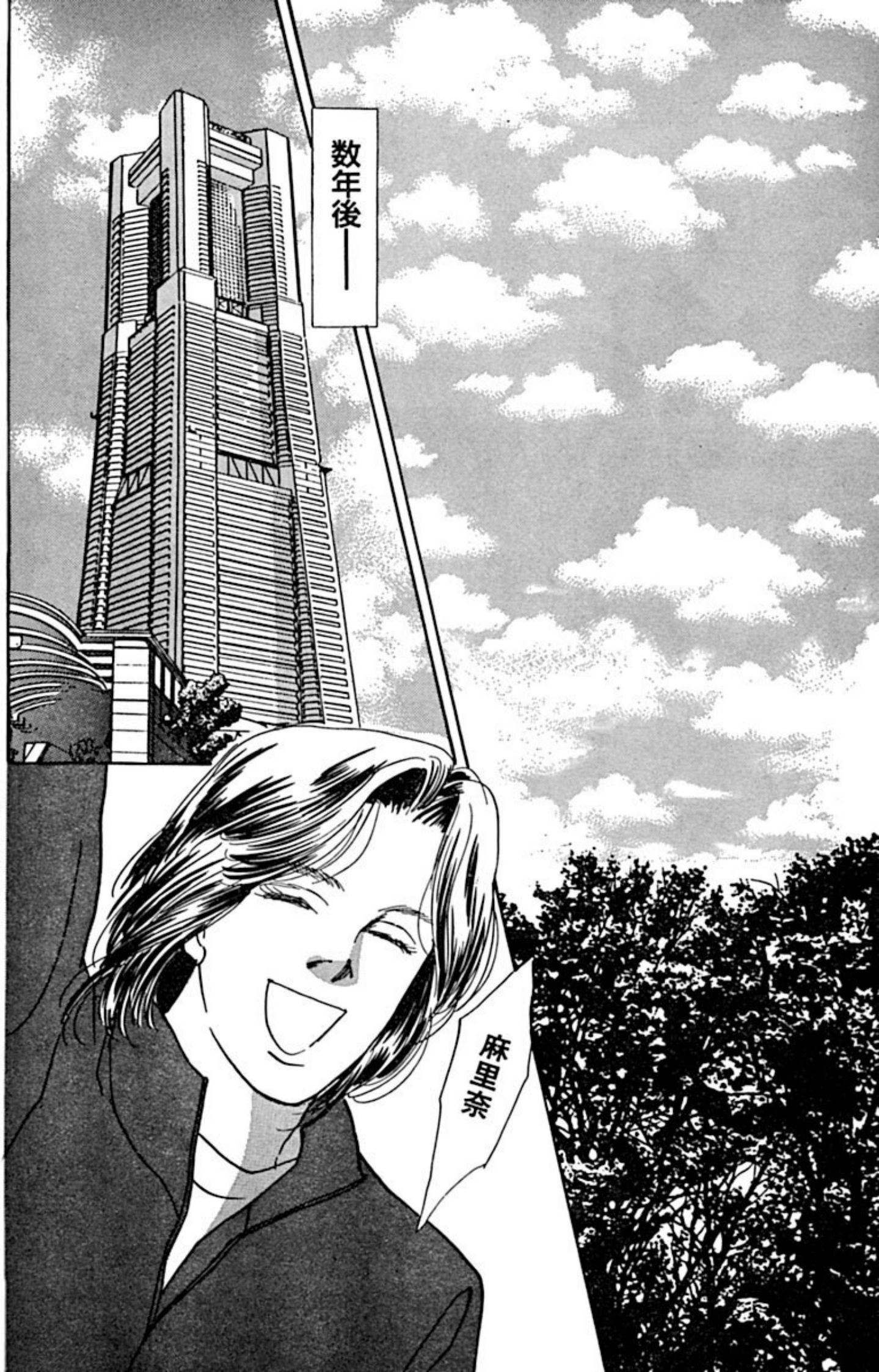
向こうで  
親がクチきいて  
くれる会社  
あるから



やがて  
風船が萎むように  
恋も萎んだ

数年後――

麻里奈







ううん  
さつき  
来たところ



待った？



スポーツクラブで  
知り合った  
きのしたまさみち  
木下政道さんとは  
そろそろ半年



はい  
はい



あー  
ハラ減った

いつも  
そうね  
まさみち  
政道さん

早く  
メシ  
食おー



ああ…



もう濡れてる

麻里奈は  
デリケートだね



初めての時から  
ドロドロだった

あ…

や…  
政…

ああ



そう

もう  
わたしは使用済み

このセックスに  
最初から  
痛みなど  
なかった

ああ

もっと  
突いて

もっと

奥まで！



合体しながら  
舌を吸うと

敏感に反応して  
膣がキュッと  
ひきしまる



く…  
麻里奈

キツイ…



お腹の奥を  
下から  
突き上げて!!

内臓を  
揺らして!!

もっと

もっと——!!





あの快感を――

痛みから序々に  
揺らいでゆく  
陶酔感を――

また味わいたい

どうしてかしら？

政道<sup>かれ</sup>は  
一生懸命  
愛してくれる

なのに――

わたしは政道さんの  
ペニスに支配  
されてない







キレイに  
なった



転勤で  
今月から  
こっちへ来たんだ

会社から  
ここに口座  
つくるように  
言われて…

驚いたな  
麻里奈  
銀行員に  
なったのか



やだ…

ホ



スカートの中が  
湿っていく



これが  
初めての男の  
魔力なの？





勇哉さん



待ってたんだ

きみを

こんな日に  
再会できる  
なんて  
思わなかった

憶えてる？  
あの頃のこと

え…



だっ  
だめよ  
わたし  
今…

彼氏が  
いるのか  
そうだよな  
おまえ  
いい女になった

自分がまだ  
青い果実  
だった頃を  
知っている男の  
誉め言葉に  
心が揺れる



や…  
やめて  
そんな  
言い方

身体の  
内側から  
湿っていく



いけない  
わたしには  
政道さんが  
!!



行こうか

ふたりきりに  
なれる所へ

グ  
イ

思い出を  
語りたい

ああ

どうして  
逆らえないの



理性では語れない  
何かが  
私を支配する――









たっぷり  
仕込んで  
やったんだよな

麻里奈に  
セックス  
教えた男って

ものすごく  
エッチだったんだな



政道さん  
ゴメン

わたし  
感じてしまう

この男の<sup>ヒト</sup>声

指

唇

わたしの内側を抉<sup>えぐ</sup>った  
あの感覚が

また わたしを支配する



溶けちゃい——!!



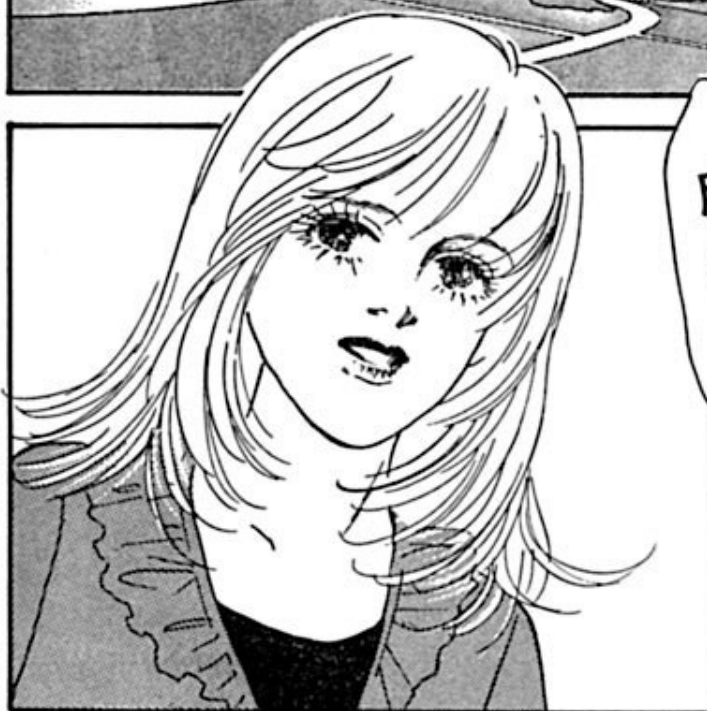
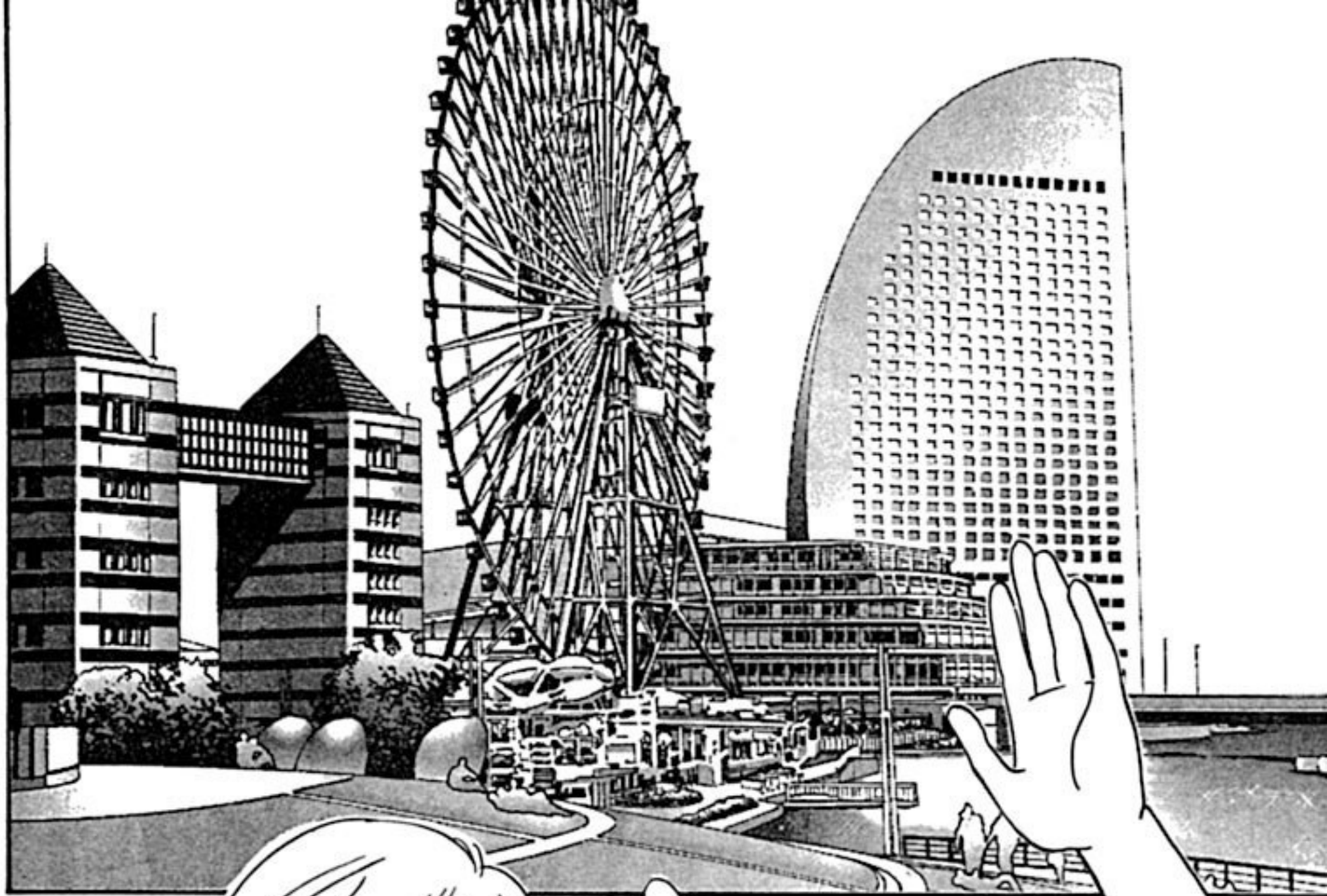
ケータイの番号を  
書き込んだ名刺を  
残して  
支配者は去った

内村 勇哉

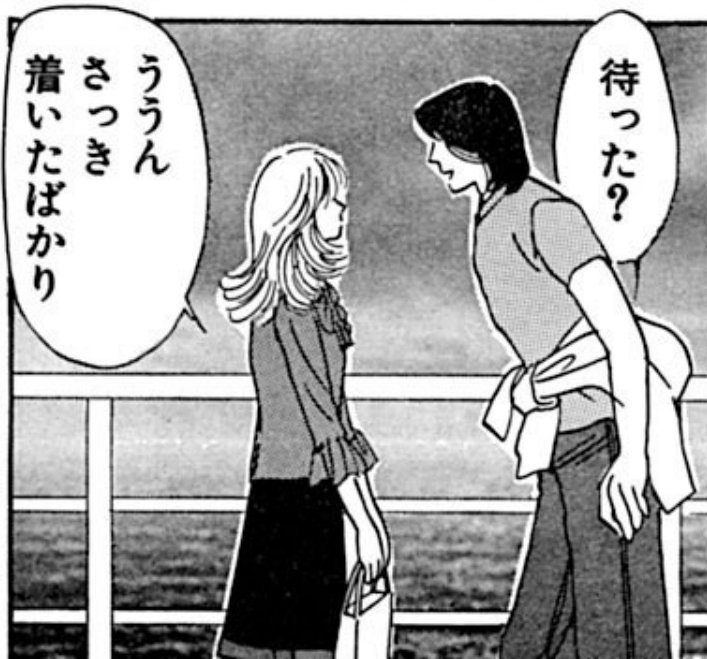
どうして

不貞の痛みが  
心に襲いかかる

政道さん  
わたし――



麻里奈!

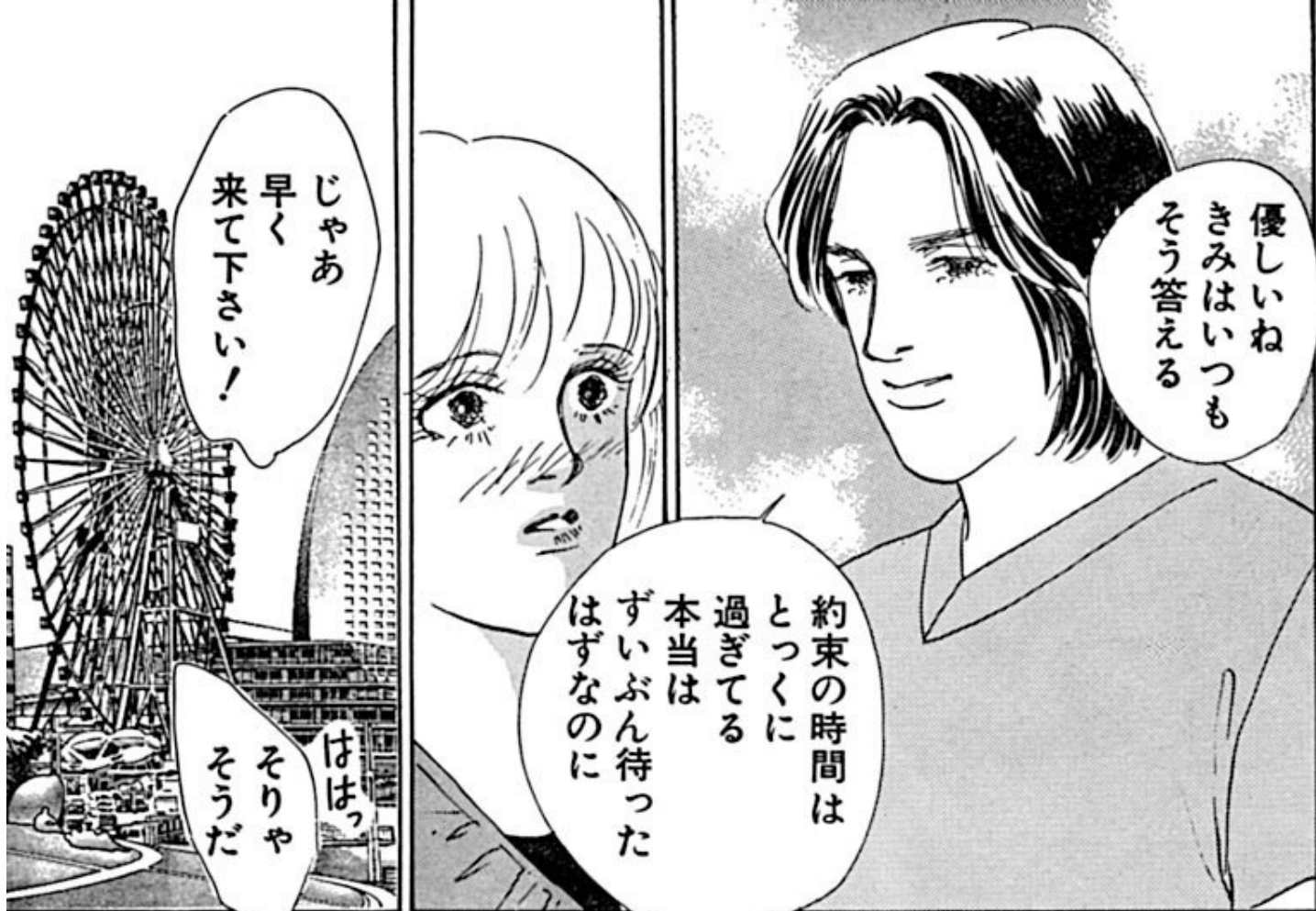


ううん  
さっき  
着いたばかり

待った?







はじめから  
あなたを通して  
勇哉のことを  
感じようとしてた

だから  
あなたに対して  
いつも  
少し引け目あって

その上

こないだ  
ついに



どうしたの？  
麻里奈  
気分悪いの？

政道<sup>かれ</sup>の優しい  
まなざしが  
針のように  
心に刺さる

熱でも  
あるのかな？





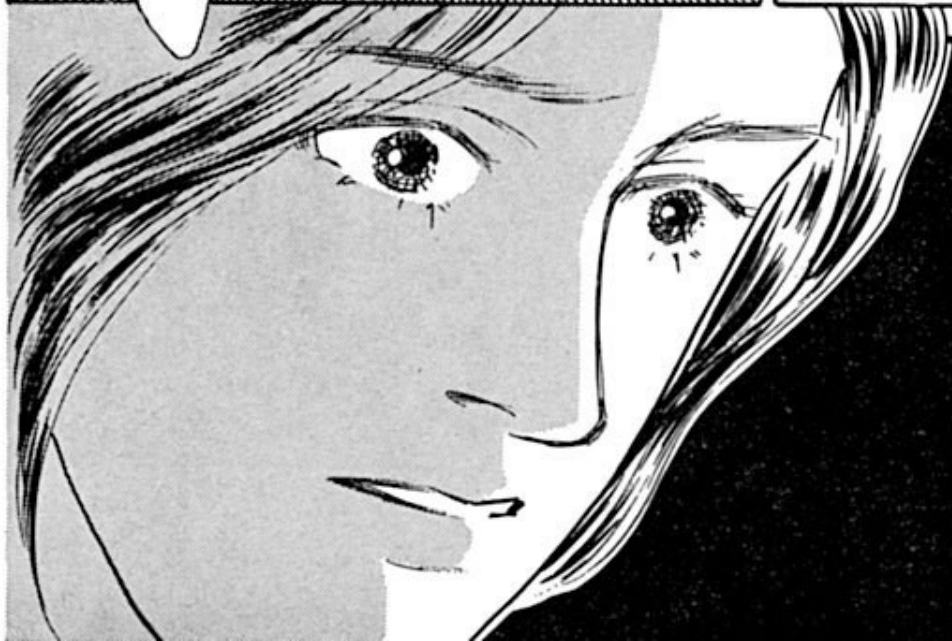
触らないで



また  
連絡する

ごっ  
ごめんなさい  
わたし  
今日は帰る









しばらくは  
政道とも  
勇哉とも  
会うのが怖くて

ひとりの夜を  
過ごした



仕事に埋没して  
痛みから  
解放されたかった

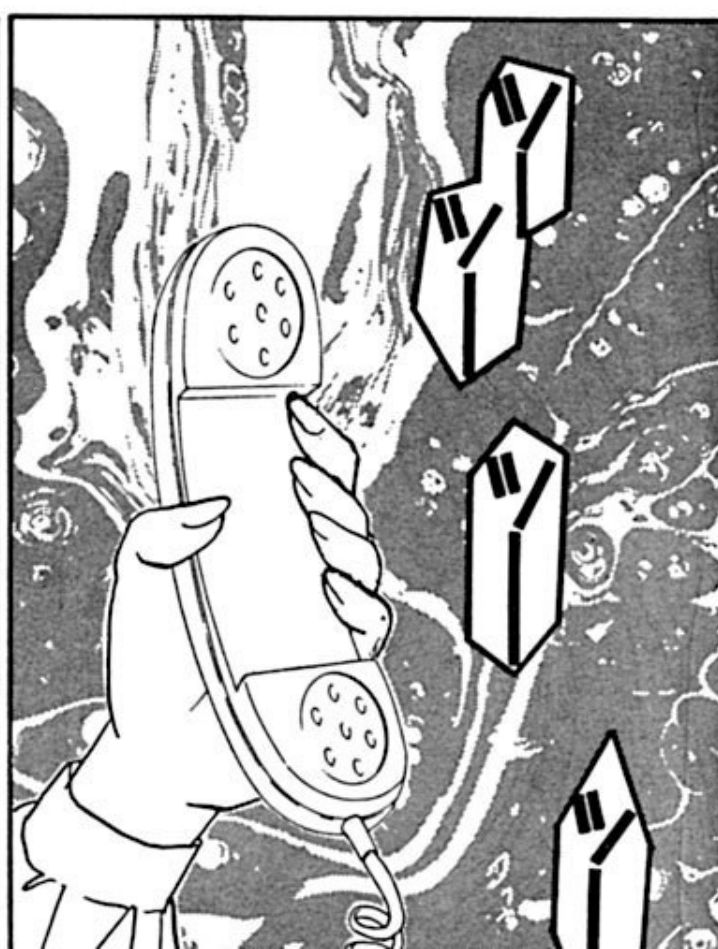


小林さん  
電話よ

木下さんから

え…

政道さん！







ごめんなさい

きみのほうが  
遅れてくるのは  
初めてだね



お礼なんて…

わたしは  
自分の心の痛みから  
解放されたくて  
来ただけ



ありがとう  
来てくれて







きみがいつも  
支配されたがって  
いるのは  
わかっていたよ

きゃ



そして  
それが  
オレの力では  
どうにもならない  
ものだって  
ことも！

あ…

痛い…

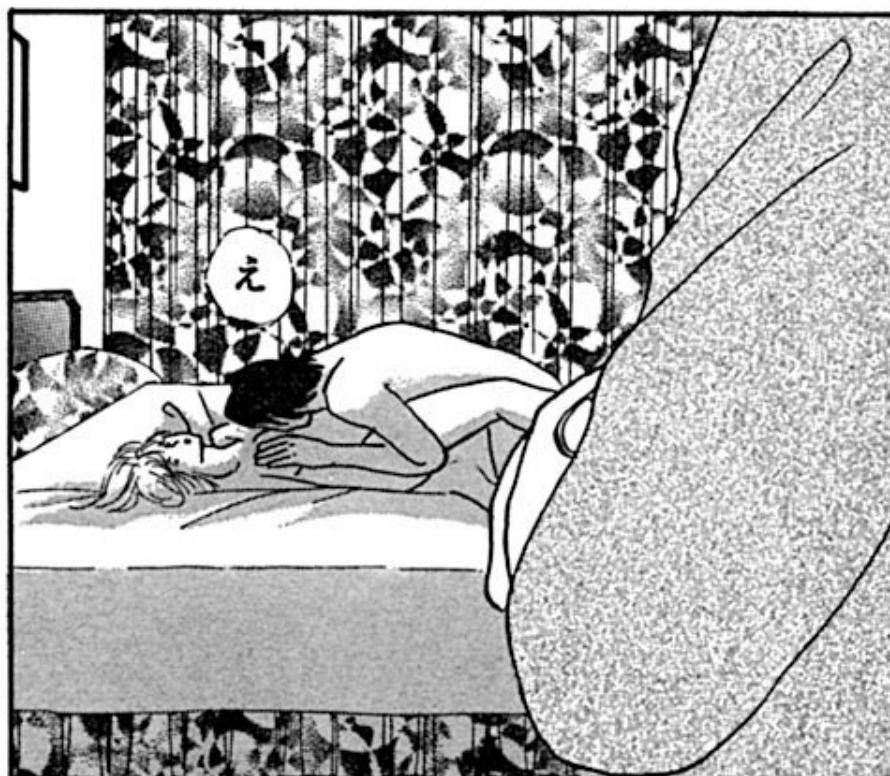
政道さん

胸…

ちぎれちやう



痛いのが  
好きなんだろう

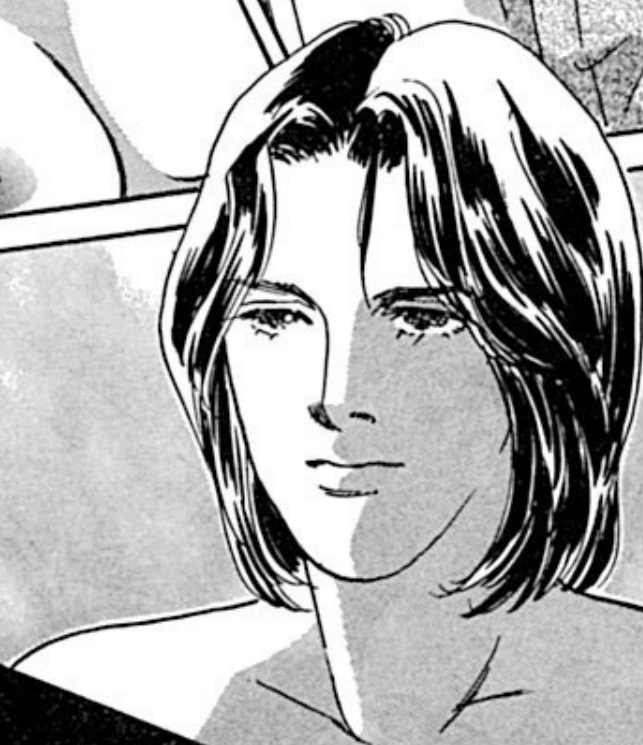


え





オレが呼んだんだ



政道さんが  
——!?



きみを支配してる  
「破瓜の痛み」を  
越えるためには  
彼に協力して  
もらうしかない  
と思ったんだ

うん



戸惑うわたしに  
おかまいなしに  
2人の男は  
支配を始める

こんなこと  
わたし...!

ひ



ん…あ

同時に塞がれる  
上下2つの唇

差し出される  
肉棒も2つ





後ろから  
滑り込んだ  
熱い異物が  
内臓をつつく

ひっ

ああ  
すごい  
大きくなってる

さあ  
麻里奈

きみは  
これを



政道さん



じゃあ  
入っているのは  
勇哉…？

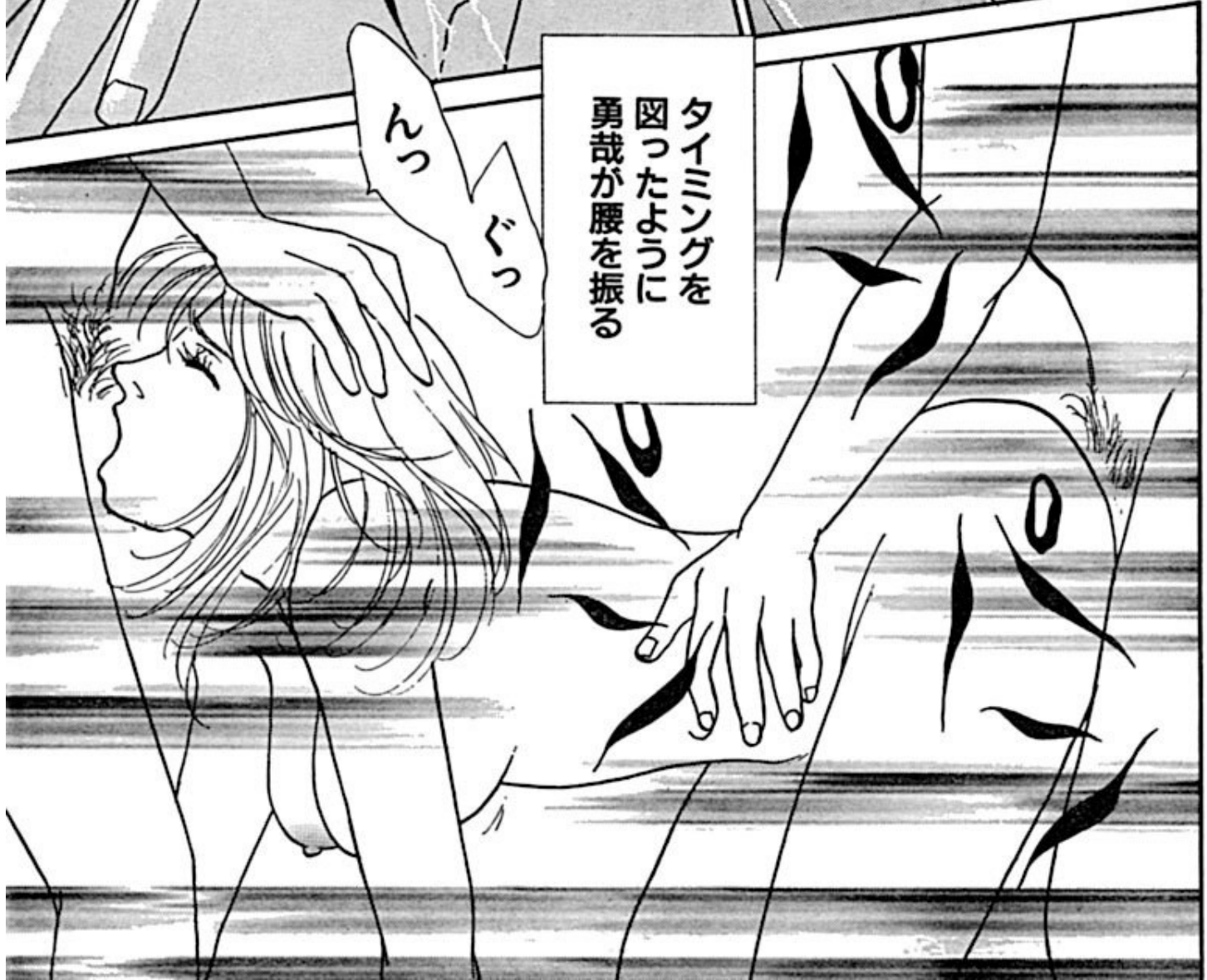




きみのアソコ  
最初の男のを  
ずっぽり  
くわえこんでる

ダラダラ  
涙流してさ

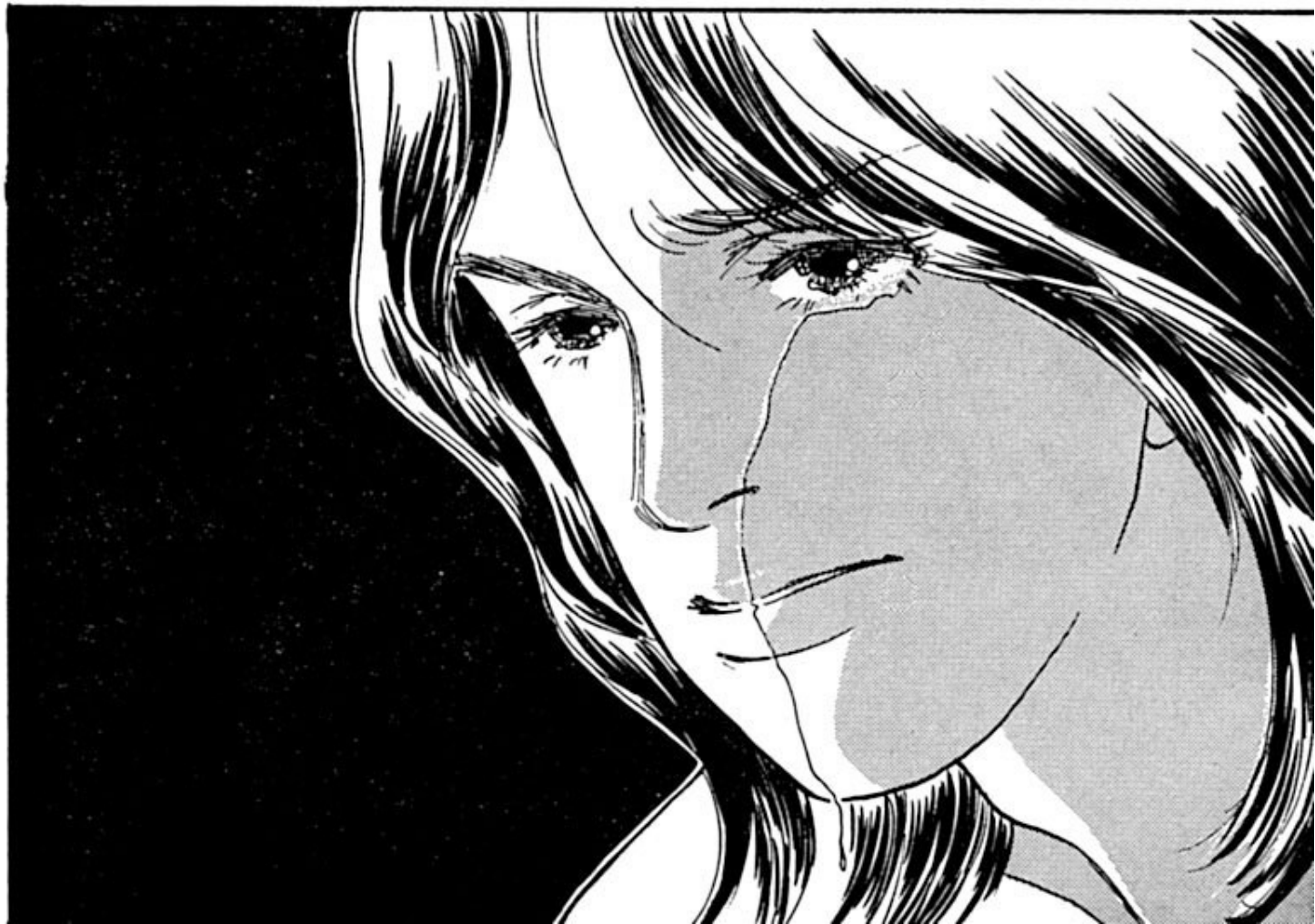
さあ  
初めての時を  
思い出して



タイミングを  
図ったように  
勇哉が腰を振る

んっ

ぐっ







その涙に  
政道<sup>かれ</sup>の心の  
痛みを見た



麻里奈?



ちようだい



わたしの  
ここに



政道さん  
今度は  
あなたの

ちようだい





わたしを誘惑する



*END*